

令和3年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

風通しのよい、企業組合による「桜の郷」づくり！

○団体名 ^{きぎょうくみあい}企業組合さくらの郷（代表 ^{さいとう かんいち}齋藤 寛一）

○所在地 福島県^{にほんまつし}二本松市

○むらづくりの背景・経緯

福島県阿武隈山系に位置する中山間地域に在し、養蚕業と稲作をなりわいとしてきたが、高齢化や兼業化により農業の担い手が不足し、毎年、耕作放棄地が増加する傾向にあった。

農家の女性有志6名が地区の将来を危惧して立ち上がり、小さな直売所を開設して郷づくりを開始し、平成24年に「企業組合さくらの郷」が設立される。

企業組合さくらの郷は、管理組合の設立、道の駅への登録、加工所・食堂等の増設に至り企業組合にまで発展してきた。また、組合員84名のうち、半数を超える46名を女性が占め、道の駅スタッフ22名中、20名が女性であり女性の活躍の場になっている。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

直売所開設により、農産物が直売できることから、地元農家が新たな農産物（そば、かぼちゃ、ごぼう、じゃがいも、ほうれんそうなどの野菜）に挑戦するようになり、生産意欲を向上させ、多品目の販売もあって、農家の所得向上につながっている。

耕作放棄地を解消するための対策として、そば栽培を推進し、道の駅で全量を買ってあげて、道の駅「さくら食堂808」で「十割手打ちそば」等を提供するなど、地元農産物を利用し、地産地消を重視した6次産業化の推進による加工品の製造を行っている。

（2）生活・環境整備面

郷土食の伝承や地元住民、大学等との交流、子どもたちが参加できるイベントを開催して地域交流を行い、関係人口を増加させている。観光資源（しだれ桜）を活用したイベントを実施することにより、賑わいの創出にも寄与している。

道の駅では、防災訓練を実施、サウジアラビア基金事業で「ガス発電システム」を整備し、災害時に対応できる体制（防災拠点機能）を構築している。

企業組合が管理する道の駅は、道路利用者の休憩の場のみならず、農産物直売所として、今後も、関係人口の増加のさらなる促進により、地区のコミュニティー醸成の場としての役割も期待されている。



直売所と女性スタッフ